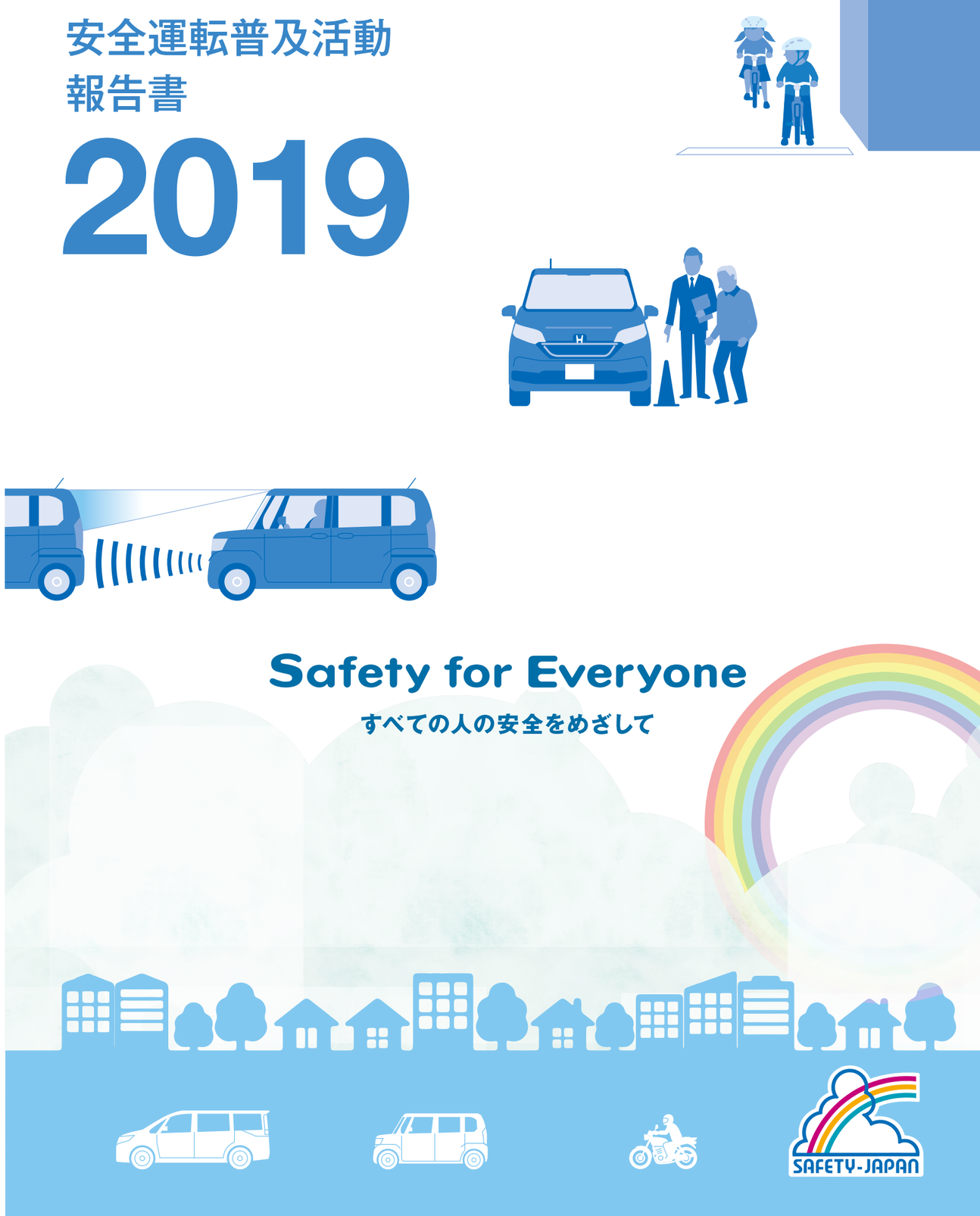
HONDA
The Power of Dreams

本田技研工業株式会社　安全運転普及本部
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/

HONDA
The Power of Dreams

Hondaの
安全運転普及活動
報告書
2019



contents

Hondaの安全運転普及活動報告書 2019

P03 **ごあいさつ**
本田技研工業株式会社 専務取締役
安全運転普及本部長　竹内弘平

P04 **Hondaの安全に対する考え方**
Safety for Everyone　すべての人の安全をめざして

P05 **2019年の振り返り**
子どもから高齢者まで様々な交通参加者に安全・安心を届ける

P06 **特集①：交通安全教育プログラムの開発と普及**
小学校高学年・中学生向けプログラムの開発

P08 **特集②：四輪販売会社での取り組み**
手渡しの安全活動の充実

P10 **交通教育センターとの連携**
企業・団体や個人のニーズに応じた参加体験型の実践教育を展開

P11 **地域社会との連携**
地域で交通安全を伝える指導者の活動を継続的にサポート

P12 **教育機器開発**
社会や時代のニーズに合わせてシミュレーターソフトを進化

P14 **関係諸団体との連携**
交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携

P16 **海外における活動**
現地の交通状況に応じて展開される安全運転普及活動を支援

P18 **福祉領域における活動**
運転復帰に向けた機会の提供や、関係団体の連携などをサポート

P19 **情報発信**
すべての交通参加者が考えるきっかけとなる情報発信

ごあいさつ

本田技研工業株式会社　専務取締役
安全運転普及本部長
竹内弘平

日頃はHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

おかげさまで本年も各領域の方々と連携、協力しながら様々な分野で国内外において活動を展開することができました。これも皆様のおかげによるものと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、元号が変わり、令和の時代を迎えました。私どもの活動はさかのぼる事、1970年、世の中では第一次交通戦争という言葉が生まれ、交通事故死者数が16,765人という過去最多であった年にスタートしました。

モビリティ製造企業の社会的責任として、安全なバイク、クルマを提供するのは当たり前、同時に製品の安全な乗り方、正しい知識も併せてお伝えする「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として活動を継続して参りました。

近年、国内における交通事故死者数は減少傾向であり、昨年はピーク時の約5分の1となる3,532人となりました。これも官民一体で交通事故に真摯に取り組んできた表れかと思うと同時に、交通事故ゼロに向けて益々、活動を充実させていく必要があると思っております。

さらに海外に目を向けますと、昨年末にWHO世界保健機関より発表された世界における2016年時点での最新の交通事故死者数はおよそ135万人であり、この数値は前回発表時から3年間で10万人増えていることを示しています。このことからも我々の活動は、国内はもとより海外における活動支援の強化も課題であると考えております。

このような環境のなか、一昨年策定した2030年ビジョンで定めた「すべての人に、『生活の可能性が拡がる喜び』を提供する」というステートメント達成に向け、交通安全の取り組みとしては「交通事故ゼロ社会の実現をリードする」ことを掲げ、すべての交通参加者を対象に本年も活動をして参りましたので、いくつかご紹介させていただきます。

はじめに、小学校高学年、中学生を対象とした新たなプログラムの開発です。私どもは交通安全教育を生涯教育と捉え、幼児から高齢者まですべての年齢層に対し、体系化されたプログラムの開発・普及をめざしております。近年では幼児向けや幼児の保護者向けなど、対象に応じたプログラムを充実させております。本年開発したプログラムは幼児期や小学校入学時点で学んだ交通安全の知識を日常的に実践し、身につけることの大切さを理解いただく内容となっています。この秋より全国の交通安全指導者の方々にご活用いただいています。

また昨今、社会問題として取り上げられることも多い、ペダル踏み間違いなどによる高齢運転者の交通事故を少しでも防ぐために、昨年より開発しておりましたプログラム「みんなで安診(安全運転行動診断)」が完成しました。4月より四輪販売会社向けの指導者養成を実施し、現在、各地区で教室が開催されています。

さらに先進の安全運転支援システムの普及とともに、その効果と機能の限界について正しく理解いただくために、実車を使った、より分かりやすい啓発動画を作成しました。現在「Honda SENSING」の体感試乗会とあわせて全国の四輪販売会社で活用いただいています。

これらのプログラムの開発・普及に加え、新たな教育機器として白バイ隊員をはじめとする二輪車乗務警察官の危険感受性向上の訓練に活用いただけるよう、一昨年発売したHondaライディングシミュレーターをベースにポリスタイプを開発中です。

最後に海外の活動支援につきましては、各国からの要請に応えた人材育成支援、教材、ノウハウの共有を行うとともに、10月にはインストラクター競技大会参加の国、地域の代表者による安全運転責任者会議を開催しました。このなかで、それぞれの取り組みの紹介やワークショップなどを通じて2030年ビジョンに向けた安全運転普及活動の方向性などを確認しました。

今後も海外支援を強化しつつ、国内においては引き続き、行政、関係諸団体、地域の皆様と連携を深めながら交通事故ゼロ社会の実現をめざし活動を継続して参ります。

最後に皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともにHondaへの変わらぬご理解と、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗る方だけでなく、社会の誰もが安心し、安全に暮らせる「事故に遭わない社会」をつくりたい、それがHondaの願いです。
わたしたちは「ヒト(安全教育)」「テクノロジー(安全技術)」「コミュニケーション(安全情報)」の3つの領域を、それぞれ進化させると同時に相互の連携を図ることで、交通事故ゼロ社会の実現をリードしていきます。

安全運転普及本部の活動の考え方

安全運転普及本部は1970年の発足以来、販売店の店頭で直接お客様へ安全をお伝えする「人から人への手渡しの安全」と、専用コースで専門のインストラクターの指導による「参加体験型の実践教育」を活動の基本としてきました。現在では、運転者だけでなく、幼児から高齢者まですべての交通参加者に向けて活動を行っています。今後も交通安全の普及活動を主体的に推進し、関係者・団体による各種活動への積極的な支援を継続していきます。

子どもから高齢者まで様々な交通参加者に安全・安心を届ける

2030年ビジョンに掲げた「交通事故ゼロ社会の実現」に向け、2019年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を展開しました。

ルール・マナーを守ることの習慣化をめざす

子どもたちは幼児期や小学校入学後の交通安全教室で、交通安全の知識や事故に遭わないための安全行動を学びます。身につけた知識を、それ以降も行動として実践することの大切さに気づいてもらうため、小学校高学年・中学生を対象とした新たなプログラム「将来 社会で活躍する君たちへ」を開発しました。社会生活を豊かに送る上での基本である「ルール・マナーを守り、習慣化させる」ことで、次代を担う子どもたちが交通安全を自分事ととらえ、事故に遭わないようにすることを目的としています。小学校高学年や中学生が歩行中、自転車乗用中にやってしまいがちなルール・マナー違反の映像を見せた後、指導者が問いかけ、児童・生徒の気づきを促す内容となっています。

小学校高学年・中学生向けプログラム

高齢運転者の方を中心に日頃の意識や運転行動を振り返っていただく

近年、ブレーキとアクセルのペダル踏み間違いなど「運転操作不適」による交通事故が高齢運転者を中心に目立っています。このような事故を予防することを目的に、四輪販売会社のお客様を対象としたプログラム「みんなで安診(安全運転行動診断)」を開発しました。安全な乗車手順やクルマの死角の確認、じゃんけんによる反応体験などを通じて、自らの日頃の意識や行動を振り返りながら、事故を防ぐために必要な安全行動の重要性をお客様に理解していただける内容になっています。四輪販売会社のスタッフを対象に導入研修を全国10ヵ所で実施。受講したスタッフが、このプログラムを活用してお客様への啓発活動に取り組んでいます。

四輪販売会社での「みんなで安診」

先進の安全運転支援システムの正しい理解の普及のために

衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能といった安全運転支援システム「Honda SENSING」を普及させるためには、搭載率向上に加え、その効果や限界について正しく理解していただくことが必要です。そのため、「Honda SENSING」の体感試乗会が全国各地の四輪販売会社で実施されています。
そして、さらに多くのお客様に正しい理解の普及を図るため、四輪販売会社の店頭でご覧いただける啓発動画を作成しました。安全運転支援システムのなかでも、誤解や過信につながりやすい衝突軽減ブレーキに焦点を当て、その効果と機能の限界について正しく理解いただくだけでなく、安全運転につながるアドバイスも行っています。

「Honda SENSING」の啓発動画

時代の要請に応える教育機器の開発と海外活動への積極的な支援

このほか、白バイ隊員をはじめとする二輪車乗務警察官の危険感受性向上の訓練等に活用していただくための教育機器として、Hondaライディングシミュレーターポリスタイプを開発中です。
海外では、各事業所で安全運転普及活動を担うチーフインストラクターを養成するなど、活動に熱心に取り組む事業所が増えるなか、グローバルで情報を共有し、課題を議論する場として、2年ぶりとなる安全運転責任者会議を10月に鈴鹿で開催しました。各国が活動状況を報告し、「研修運営における安全対策」をテーマにワークショップを行うなど活発な議論ができ、2030年ビジョンに向けた安全運転普及活動の方向性などを確認しました。

小学校高学年・中学生向けプログラムの開発

子どもたちは幼児期や小学校入学後の交通安全教室で、交通安全の知識や事故に遭わないための安全行動を学びます。そこで身につけたことを、それ以降も実践することの大切さに気づいてもらうため、今年は小学校高学年・中学生を対象とした新たなプログラム「将来 社会で活躍する君たちへ」を開発しました。

鹿児島市立荒田小学校での交通安全教室

「“しっている”から、“している”へ」を実践してもらうために

今年9月より、小学校高学年・中学生向けプログラム「将来 社会で活躍する君たちへ」が全国各地の交通安全指導者に活用されています。

鹿児島県鹿児島市の交通安全指導者は、同市立荒田小学校の児童を対象にこのプログラムを使った交通安全教室を開催しました。

小学3～6年生を対象に本編「自転車」を活用。一時停止標識を無視して止まらずに交差点内に進入した自転車が、右側から来たクルマと衝突してしまうなど、ルール・マナー違反が事故につながる映像を見てもらい、どのようにすれば事故を防げたのか児童に問いかけ、意見を引き出します。そして、解説編では、自転車利用者の目線で撮影した映像を使って「止まる」ことの大切さを解き明かしました。解説編の最後に、「“しっている”から、“している”へ」というメッセージが映し出され、指導員が、事故に遭わないためにも道路を歩く時、自転車に乗る時は、皆さん一人ひとりが知っているルールやマナーを守って行動してほしいと呼びかけました。

今後、小学校高学年・中学生の交通安全教育の充実につなげていただけるよう、全国各地にこのプログラムを普及していきます。

ルール・マナーを守ることの習慣化をめざす

今年新たに開発した小学校高学年・中学生を対象としたプログラムには、社会生活を豊かに送る上での基本である「ルール・マナーを守り、習慣化させる」ことにより、次代を担う子どもたちが交通安全を自分事ととらえ、事故に遭わないようにしてほしいという想いを込めています。

プログラムは導入編と本編で構成（下記参照）。本編は「歩き」「自転車」「標識」の3つのテーマからなる映像教材となっています。それぞれ単独で選択できるため、交通安全指導者が学校などの要望や実施時間に応じて組み合わせをアレンジできるようになっているとともに、場面ごとに子どもたちに問いかけながら進める対話型構成になっているのが特徴です。

プログラム概要

導入編

HondaJet

HondaJet やSuper Cubなどの1枚の静止画が時間とともに変化し、そのポイントを見つけてもらうというもので、これから始まる交通安全教室への関心や集中力を高める役割を果たします。

Super Cub

サッカーワールドカップ

交通社会にも通ずる周りへの気遣いや思いやりの大切さを感じてもらうため、2018年サッカーワールドカップで日本人サポーターが試合後、自発的に観客席のゴミ拾いをしたエピソードを紹介しています。

本編

歩き
問題編　解説編

自転車
問題編　解説編　安全な走行

標識
標識の種類

問題編では守るべきルール・マナーについて、危険予測や他人への配慮の観点から起こり得る事故やその影響について考えます。小学生や中学生が歩行中、自転車乗用中にやってしまいがちなルール・マナー違反の映像を見せた後、指導者が子どもたちに問いかけ、いろいろな意見を引き出しながら進められるようになっています。

左右の安全確認をせずに飛び出す

一時停止をせずに交差点に進入

解説編では飛び出しの危険性と止まること、確認することの重要性を説明。これに加え、「自転車」では「安全な走行」として、法規に則った模範運転を映像で確認できるようになっています。

クルマが予想以上に速く近づいてくることを示す

停止線の手前で止まり、左右を観るなど正しい方法を示す

生活の身近にある道路標識が「何を伝えているのか？」「なぜ守らなければいけないのか？」考えるきっかけを与えるためのものです。

全国各地の珍しい動物標識や、知っておくべき7つの標識を紹介

交通安全指導者の声

短い映像のなかに守ってほしいルール・マナーが凝縮されているので、子どもたちが飽きずに集中して見ることができます。そして、映像を見るだけでなく、子どもたちが危険を見つけて、みんなの前で各々の意見を述べること、事故に遭わないようにするためにはどうしたらいいか、自らが考えられる点が良いと思います。また、子どもたちとコミュニケーションをとりながら進めることができる点も効果的だと感じました。

鹿児島市・安心安全教育指導員 前田靖代さん（左）と田丸博子さん（右）

受講した児童の声

★DVDを見て、街中には危険なことがたくさん潜んでいて怖いなと感じました。普段、自転車によく乗るので、クルマの動きに十分に注意したり、人の多いところでは降りて押し歩きしようと思います。（小学6年生・男子）

★いろいろな事故の場面が出てきたので、事故に遭わないようにするには、自分がどう対応すればいいか考えることができました。今日、学んだことを普段できるようにしたいと思います。（小学6年生・女子）

学校長の声

どれだけ知っていても、行動に移さなければ意味がないということを子どもたちはこのプログラムを通じて、理解を深めました。ルールやマナーを守ることが他者への思いやりにつながることを示唆する内容になっている点も良かったと思います。

鹿児島市立荒田小学校校長 根木原俊明さん

手渡しの安全活動の充実

全国各地のHonda Cars（四輪販売会社）では店頭での安全アドバイスなど、お客様との触れ合いを大切にした手渡しの安全活動を実践しています。Hondaは、こうした活動を充実させるため、安全運転教育プログラムの開発や指導者の養成を積極的に行っています。

Honda Cars 熊本のスタッフによる「みんなで安診」の講習

「Honda SENSING」の啓発動画

高齢運転者の方を中心に日頃の意識や運転行動を振り返っていただく

近年の交通死亡事故の要因の一つとして、ペダルの踏み間違いなどの「運転操作不適」が高齢運転者を中心に目立っています。

また、若年層でも「運転操作不適」による事故が多いことから、すべての運転者の方に日頃の運転を振り返りながら事故を防ぐ安全行動の重要性に気づいていただくためのプログラム「みんなで安診（安全運転行動診断）」が今年、完成しました。店頭でできる簡単な体験を通じて、「運転操作不適」による事故を防ぐためのポイント「安全確認」「余裕を持った行動」「早めの危険予測」の重要性をお客様に理解していただくことを目的としています。

Hondaはこの「みんなで安診」を四輪販売会社で展開するための導入研修を全国10ヵ所で実施。44都道府県の四輪販売会社から209名（10月末時点）のスタッフが受講しました。そのなかでHonda Cars 熊本（本社：熊本県熊本市）は、6月から9月にかけて全拠点で「みんなで安診」を実施しています。

プログラム概要

導入	体験		まとめ
体験前の自己評価	①乗車、発進 ・死角確認 ・安全な乗車手順	②走行 ・じゃんけんによる反応体験	体験後の自己評価

安全確認をしないことの危険性に気づいていただくための死角確認

安全な乗車手順では、乗り込みから発進までの必要なことを確認

後出しで負けるなど、通常と異なるルールのじゃんけんによる反応体験

比較し、自身のギャップに気づいていただく

衝突軽減ブレーキに焦点を当てた啓発動画を作成

お客様に安全運転支援システムを安心してご利用いただくために、衝突軽減ブレーキの啓発動画を作成しました。誤解や過信を防止するため、作動の流れ、天候や道路環境の様々な条件による、機能の効果と限界も解説。また予期せぬ作動時でも慌てず対処できるよう、正しい運転姿勢や荷物の積載についても言及しました。この動画は、四輪販売会社のスタッフが携帯しているタブレットで、お客様にご覧いただけるようになっています。

四輪販売会社の店頭など、お客様に正しく理解いただくための場と機会を拡大

先進の安全運転支援システムの正しい理解の普及のために

Hondaは2017年に発売したN-BOX以降、軽自動車を含めたすべてのモデルで、「Honda SENSING」と総称する先進の安全運転支援システムの標準装備化を進めています。このシステムを搭載したクルマが増えているため、運転するお客様がその効果と機能の限界について正しく理解していただくことが重要です。

そこで、四輪販売会社のスタッフが、より正しくお客様に安全運転支援システムの説明ができると同時に、各拠点などで体感試乗会を安全に運営するための研修プログラムを作成。これをもとに、Hondaの交通教育センターを中心にASC※研修（アドバンスドセーフティコーディネーター研修）として実施しています。研修を受講したスタッフは全国各地で「Honda SENSING」の体感試乗会を開催。スタッフが運転するクルマで、お客様に衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能を体感いただいています。

※セーフティコーディネーター（SC）：安全運転のアドバイスを行うための社内資格。ASC研修はSC資格取得者を対象に、レベルアップ研修として実施。

ASC※研修を受講した四輪販売会社のスタッフが体感試乗会でお客様に「Honda SENSING」について説明

受講したお客様の声

運転中にヒヤリハットするなど不安を感じていたので受講しました。事故にいたらないようにするため、余裕を持った行動や早めの危険予測を意識して運転しようと思います。（70代・男性）

運転席からミラーで見えない死角の範囲を実際に確認できたことが勉強になりました。これからはクルマに乗り込む前に周囲の安全を確かめたいと思います。（70代・女性）

販売会社のスタッフの声

Honda Cars 熊本
取締役 管理統括部 部長
石垣弘さん

お客様に長く安全に運転を続けていただきたいと、私たちは願っています。これを実現するには、事故を予防するための教育の場と機会を提供することが必要であると考え、全拠点で「みんなで安診」を活用した安全運転講習を開催することにしました。お客様に好評で、私たちも手ごたえを感じているので、今後も定期的に実施していく予定です。

Honda Cars 熊本
社会貢献推進室　参事
江崎修一さん

お客様が熱心に耳を傾けてくださるだけでなく、積極的に自分の体験や意見をお話しいただけるので、「みんなで安診」はとても効果的なプログラムだと感じています。乗車前の安全確認など、当たり前の基本を確実に実践することが事故の予防につながることを多くのお客様に伝えていきたいと思います。

企業・団体や個人のニーズに応じた参加体験型の実践教育を展開

全国7ヵ所にあるHondaの交通教育センターでは、安全教育の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に参加体験型の実践教育により、スキルアップとともに安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約8万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。

HDSP※を活用した運転集中度検証

受講者に配付する運転集中度検証の測定結果（イメージ）

独自のシステムを活用し効果的な安全運転教育を実施

企業・団体向けには、車両の使用状況や、事故実態に即したオリジナルプログラムを提供しています。
Hondaは独自に開発した運転評価システムHDSP※を今年、運転集中度検証（意識の脇見検証）というプログラムに導入し、鈴鹿サーキット交通教育センターで運用を開始しました。このプログラムは運転中の携帯電話等の使用はもちろん、考え事や同乗者との会話なども「意識の脇見」へとつながり、安全運転を阻害する要因となる場合があることを受講者自身に認識してもらうことを目的としています。

運転中に計算問題に答えることで「意識の脇見」をする状況をつくり出し、その際の運転行動をHDSPによって可視化。通常時と比較することで、「意識の脇見」が運転に及ぼす影響を受講者に気づかせます。このほか、福祉施設の送迎運転者向けの研修（ケアドライブ）でも「同乗者に安全なやさしい運転」を明確化するため、HDSPを導入しました。

※2018年から活用されている独自の運転評価システム「Honda Driving Style Proposal」の略。

Hondaのインストラクターの指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに安全運転技術の向上と均質化を図る場と機会の提供を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。20回目となる今年は、国内の交通教育センターや事業所から38名、海外の8の国と地域から37名のインストラクターが参加。二輪部門と四輪部門に分かれ、それぞれ3種類の競技を行うとともに、指導力とコミュニケーション能力の向上をめざし、「安全運転のための感情コントロール」についてグループディスカッションを実施しました。各国の交通状況を理解しながら、様々な意見を交換することで、各々がインストラクター活動に役立てるヒントを持ち帰りました。

二輪競技部門

地域で交通安全を伝える指導者の活動を継続的にサポート

Hondaは地域の交通安全指導者や関連企業の従業員に対し、教育プログラムや指導方法を提供し、その活動をサポートしています。

新たなノウハウの創出をめざし、情報交換できる場と機会を提供

地域の交通安全指導者を対象にした「交通安全教育プログラム勉強会」を2015年から毎年開催しています。参加者が相互に指導内容を共有し、意見を交換することで指導に役立てていただくこと、そして参加者の知識と経験を新たなプログラムの開発に活かすことが目的です。今年は19地区から交通安全指導者30名が参加しました。幼児向けおよび高齢者向けのプログラムをテーマに、参加者が日頃の活動内容や指導に活用している教材を紹介。さらに、グループに分かれて、何をどのように伝えるべきかを討議しました。勉強会で提案された意見やアイデアを反映し、新たなプログラムの開発を行っていきます。

日頃の活動内容や指導に活用している教材などについて参加者が発表

幼児向けおよび高齢者向けプログラムをテーマにグループに分かれて討議

Honda関連企業のインストラクターによる周辺地域への交通安全活動

Hondaは関連企業内の交通安全指導者「Hondaパートナーシップインストラクター（以下、HPI）」の養成研修を実施しています。HPIは自社内および事業所の周辺地域における交通安全の普及に取り組んでおり、その活動の1つが親子交通安全教室の開催です。この教室は、子どもには事故の危険や怖さ、保護者には自らが事故を防ぐ知識と、子どもの行動特性を理解していただくことを目的としています。各地域とも交通行政、自治体、関係諸団体と連携しながら、継続して展開。また、関連企業同士の活動内容を共有する場を設け、開催地区の拡大を図っています。

左折巻き込み事故の再現

飛び出し事故を再現

2019年 親子交通安全教室実績

4月	（株）ケーヒン（栃木県）
5月	日信工業（株）（新潟県）
	合志技研工業（株）（熊本県）
6月	（株）ケーヒン（宮城県）
7月	（株）ケーヒン（埼玉県）
9月	トピーファスナー工業（株）（長野県）
	（株）エフ・シー・シー（静岡県）
10月	日信工業（株）（長野県）
	九州武蔵精密（株）（熊本県）
	ヴィオニア日信ブレーキシステムジャパン（株）（長野県）
11月	八千代工業（株）（三重県）※初開催

社会や時代のニーズに合わせて シミュレーターソフトを進化

Hondaは長年培ってきた安全運転のノウハウを活かし、シミュレーターをはじめ、様々な安全運転教育の現場で活用していただくための教育機器やソフトを提供しています。それらは、社会のニーズに合わせ常に進化させています。

ライディングシミュレーターポリスタイプ(開発中)

ライディングシミュレーター ポリスタイプの開発

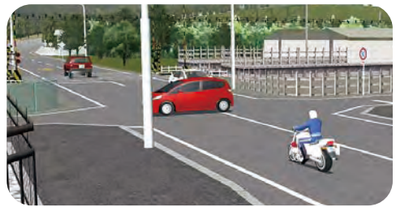
Hondaでは路上での実施が困難な二輪車の危険予測トレーニングを仮想空間で行える安全運転教育機器として、1996年にHondaライディングシミュレーター(次頁参照)を開発。進化を重ね、2017年には3世代目を発売しました。このノウハウを元に、白バイ隊員をはじめとする二輪車乗務警察官の訓練で活用できるポリスタイプを開発中です。

車体はライディングシミュレーターを活用し、白バイ隊員訓練用の専用ソフトを新たに開発。違反車両の追尾中に想定される危険なシチュエーションの再現や、追跡中の広報マイク音声の録音機能、プロジェクターへの映像投影機能を追加し、白バイ隊員の集合教育で活用できるようにしています。また、免許教習用に開発された基本ソフトも、警察学校や各警察署での警らバイク訓練時の危険予測能力を向上させるツールとして活用が可能です。

試験運用では訓練の現場から「組み立てが容易で様々な場所で運用できる」「実際の装備を再現するだけでなく、使用もできるため本格的な訓練が実施できる」といった評価をいただきました。

追尾中の音声録音機能も備える

赤色灯など白バイ装備を再現した画面



違反者追尾中の危険状況を再現

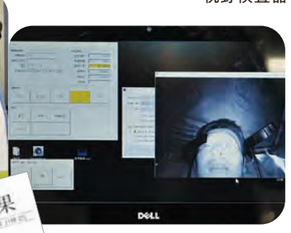
視野検査器の開発

視野障害をきたす眼疾患の代表である緑内障とは、何らかの原因で視神経が圧迫され視野が狭くなる病気で、症状が進行しても視野の中心は見えているため、自覚できないことが特徴です。Hondaは2010年から、視野狭窄が進んでいても運転を継続している後期緑内障患者の専門医による実態調査に協力する一方、警察庁の「高齢運転者交通事故防止対策に関する提言」の具体化に向けた分科会の一つである「視野と安全運転の関係に関する調査研究」に委員として参画。Hondaセーフティナビを使って視野異常と交通事故の関係について分析するためのデータを収集してきました。

また、現行の高齢者講習で運用されている水平方向のみを測定する視野検査器に加えて垂直方向も含めた広範囲での視野の欠損状況を測定する視野検査器を開発しました。この視野検査器は今秋、期間限定で埼玉県の運転免許センターでの高齢者講習に使用され、その機能の効果検証にも協力しました。今後は視野狭窄など、自分の目の状態を知るためのスクリーニング機器として、活用できる方法を検討していきます。

視野検査器

検査の様子



検査器の測定画面

測定結果をその場で出力可能

安全運転教育機器

Hondaライディングシミュレーター

路上での実施が困難な二輪車の危険予測トレーニングを仮想空間で行える安全運転教育機器です。教習所での免許取得時教育のほか、様々な場面で活用できる危険予測学習に特化したソフトが充実しています。(写真は3世代目)

Honda自転車シミュレーター

実際の交通状況を再現し、街中での自転車の運転を模擬的に体験できます。交通ルールやマナーの解説等により、道路交通法に沿った乗り方の学習や、自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験し、危険予測能力を高め、安全意識の向上を図ります。

Hondaセーフティナビ

「だれでも、楽しみながら、様々な交通状況が体験学習できる」をコンセプトとし、パソコンを使用して、市販のステアリングなどと組み合わせることで、簡易型シミュレーターとして手軽に使用できます。

◎一般向け

安全運転に繋がるアクセル、ブレーキ操作からエコドライブの度合いを診断したり、検定員の指示による走行体験や走行環境の変化における注意点を学ぶことができます。

◎リハビリテーション向け 運転能力評価サポートソフト

リハビリ加療中の方の自動車運転復帰に向けて、運転能力に対する評価・訓練をサポートするソフト。シミュレーターにより、運転操作における手足の複合的動作を確認できます。

Honda動画KYT

CG動画映像を用いて、時間的経過(事故に至る流れ)に対する瞬時の認知・判断を伴う研修を多人数ですることで、危険予測能力を高める集合学習教育機器です。

交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携

安全運転普及活動を行っている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

交通事故未然防止に向けた「SAFETY MAP」の活用

2013年3月より一般公開を開始した「SAFETY MAP」は運転者だけでなく、歩行者・自転車利用者等も含めたすべての交通参加者が、パソコンやスマートフォンで自由に活用でき、その地域で暮らす皆様の声でつくられていく安全マップです。個人の利用だけでなく、交通事故防止に活用する企業・団体も増えています。

今年は愛媛県警察本部、茨城県警察本部と「交通事故防止対策の推進に関する協定」を締結。「SAFETY MAP」に表示されている急ブレーキ多発地点情報のデータ提供や交通安全教育に活用できる事故分析資料の提供を受けるなど、交通事故防止に向けて相互に協力していくこととなりました。このような協定を本年の2県を加え、7都府県の警察本部と締結したほか、広島県庁や広島県警にもデータを提供しています。

警察、県庁との連携

2016年	大阪府警察本部(協定締結)／長野県警察本部(協定締結)
2017年	千葉県警察本部(協定締結)／警視庁(協定締結) 広島県庁(データ提供のみ)／広島県警察本部(データ提供のみ)
2018年	滋賀県警察本部(協定締結)
2019年	愛媛県警察本部(協定締結)／茨城県警察本部(協定締結)

パソコン用「SAFETY MAP」(画面はイメージ)。日本中を走るHondaインターナビ(双方向通信型のカーナビ)搭載車から通信で送られてくるデータをもとにした急ブレーキ多発地点情報をはじめ、事故多発エリア情報やゾーン30情報などを表示。パソコンやスマートフォンで自由に閲覧でき、閲覧者が交通安全上危険だと感じた場所に投稿することも可能。
詳細は以下のWebページを参照ください。
https://safetymap.jp/

現場改善事例(千葉県千葉市)

改善前:停止線、横断歩道のかすれ

改善後:停止線を倍幅化し、横断歩道を補修

教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

全国の自動車教習所教習指導員の方々の自己研鑽への動機づけや情報交換と交流の場としていただくことを目的に、2001年に始まった「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」(後援:(一社)全日本指定自動車教習所協会連合会)は今年で19回目を迎えました。会場となった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国78校135名の教習指導員の方々が2日間にわたり競技に取り組みました。さらに実車競技に加え、安全な実技講習会運営について学び合う実技指導力についてのグループディスカッションも実施しました。
また、この大会には審判員として全国20校23名の教習指導員の方々にご協力いただき、ノウハウの提供も行っています。

大型二輪部門競技

四輪部門競技

実技指導力向上のためのグループディスカッション

関連団体などの活動も積極的に協力

二輪車安全運転全国大会

「二輪車安全運転全国大会」は(一財)全日本交通安全協会の主催で、1968年から毎年開催されてきましたが、2017年の第50回をもって終了となりました。その後、1年の休止を経て、(一社)日本二輪車普及安全協会が主催者となり「二輪車安全運転全国大会2019」として8月3日、4日に鈴鹿サーキット交通教育センターで再開。同大会は、二輪運転者の安全運転技能と交通マナーの向上を図ることにより、交通事故を防止するとともに、二輪車の普及、安全利用を促進することをめざしています。再開にあたっては、安全運転技能を、より正確に評価できるよう競技内容や採点基準の見直しについて積極的に協力しました。来年以降も継続して開催される予定です。

34都道府県から122名の選手が参加

低速時の運転技能向上を目的に設けられた課題「極小バランス」

高校生「三ない運動」廃止・見直しの支援

埼玉県では今年度から「三ない運動(免許を取らせない・バイクを買わせない・バイクに乗らせない)」を廃止しました。これに合わせて、バイクの運転や購入を届け出た生徒を対象にした安全運転講習が始まり、講習の運営にも協力しています。今年度は埼玉県内で6回開催され、これまで「三ない運動」のなか、すでに免許を取得し乗っていた高校生にも積極的に参加いただきました。「三ない運動」の見直しについては三重県でも検討委員会が立ち上がり、協力を行いながら議論を進めるなど委員として参画しています。

埼玉県での二輪に乗車する高校生を対象とした安全運転講習

高齢運転者や高校生の交通安全教育に協力

自動車業界団体である(一社)日本自動車工業会で構成された委員会活動を通じて、高齢運転者や高校生向け自転車交通安全教育の活動に協力しています。
特に50歳以上の四輪運転者向け「シニアドライバーズスクール」〔(一社)日本自動車連盟主催、(一財)全日本交通安全協会等協力〕では、高齢運転者に安全な運転を続けていただくため、Hondaとして座学や実技プログラムのノウハウ、安全運転サポート車の提供に協力しています。
また、自転車に乗る高校生とクルマの共存をめざしたプレドライバー教育は、(一財)日本交通安全教育普及協会を通じて県教育委員会や警察署、指定自動車教習所協会等と協力し、高校生に対して自転車の交通安全教育を行っています。そのなかで、生徒が主体的・協力的に交通安全を考えることができる教育手法や実技講習等、普及拡大と定着に向けた仕組みづくりを支援しています。

シニアドライバーズスクール

現地の交通状況に応じて展開される安全運転普及活動を支援

海外における安全運転普及活動は、国内と同様に「人から人への手渡しの安全」「参加体験型の実践教育」を基本とし、海外事業所が主体となって展開しています。販売店でのお客様への安全アドバイス、交通教育センターでの運転者教育、学生や子どもを対象とした安全教育を中心に、政府や関係諸団体とも連携をとりながら各国の交通状況に即して活動を実施しています。

ベトナムでの企業向け二輪安全運転研修

国を越えた課題・情報の共有

安全運転責任者会議を開催

今年10月、海外の活動を推進する各国事業所の代表者による安全運転責任者会議を鈴鹿サーキットで開催。海外の9の国と地域から21名、日本からは各交通教育センターの代表者が出席しました。会議では各国各地での重点テーマや課題を共有するとともに、「研修運営における安全対策」をテーマに危険を安全に体験してもらうための進め方など、参加者全員がこれまでに蓄積したノウハウや経験をもとに知恵や意見を交換し合うディスカッションも実施しました。
二輪・四輪の安全運転普及活動を行う担当者がグローバルで情報共有し、課題を議論することにより、2030年ビジョンに向けた安全運転普及活動の方向性などを確認しました。

安全運転責任者会議

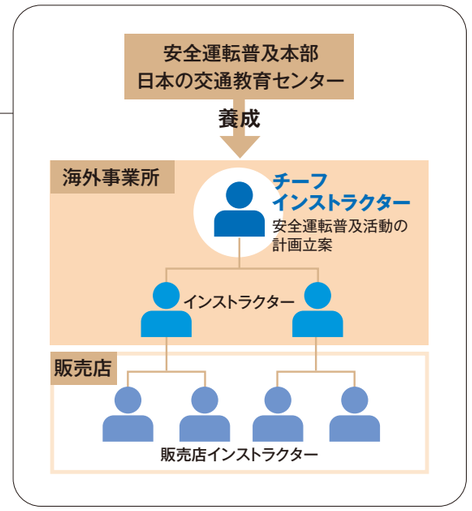
アジア大洋州における二輪の安全運転普及活動の強化

Asian Honda Motorが主催する二輪事業所の安全運転部門のマネージャーを集めたミーティングが、昨年に続き今年7月にベトナムで開催され、アジア大洋州地域の11の国と地域から12事業所40名が出席しました。
日程は2日間にわたり、会議では各国の安全運転普及活動などが紹介され、参加者同士で具体的なノウハウの共有や意見交換を行いました。また、ハノイ市内の交通状況をはじめ、販売店主体の企業研修やお客様へのPDSA（Pre-Delivery Safety Advice：納車前安全アドバイス）、交通教育センターでの研修等も視察しました。

ミーティングの様子

交通教育センターでの研修を視察

普及活動を担う インストラクターの養成



インド　チーフインストラクター研修

Hondaのインド二輪現地法人であるHonda Motorcycle & Scooter India（以下、HMSI）は、今後、州政府と協力して交通教育センターを運営していくために、二輪および四輪のチーフインストラクターを養成しました。今年3月にHMSIから10名が鈴鹿サーキット交通教育センターを訪れ、11日間の研修を受講しました。座学、実技、ロールプレイなどを通して、現地法人内のインストラクター養成スケジュールやライディングスクール開催企画の立案、研修の模擬開催を実施しました。インド国内の事故削減に向けて、今後も安全運転活動の強化・定着に取り組んでいきます。

台湾　チーフインストラクター研修

台湾の現地法人台湾本田股份有限公司Honda Taiwan（以下HTW）は、二輪車を安全に楽しく乗っていただけるように二輪販売店と連携してお客様向けの安全運転講習を積極的に展開しています。また、大学・企業・子ども向けの安全運転普及活動にも取り組み、台湾の交通安全に貢献しています。
HTW及び二輪販売店インストラクターの養成研修は2015年より日本の交通教育センターで開始され、これまでに研修を受けた22名のインストラクターが現在活躍しています。今年7月には、新たにHTWのチーフインストラクター 2名、販売店のインストラクター3名の養成を行いました。今後、HTW及び販売店インストラクターが中心となってさらなる安全運転普及活動の推進を行っていきます。

中国　販売店インストラクターの養成

Hondaの中国現地法人である本田技研工業（中国）投資有限公司（以下HMCI）は、中国国内の事故削減をめざし、昨年社内にチーフインストラクターを養成しました。本年は、HMCIチーフインストラクターが販売店スタッフ向けに安全運転指導者養成研修を行いました。今年3月に9日間、上海郊外の会場において9店舗12名の受講生に指導を行い、全受講生が「安全指導員」の資格を取得しました。今後は販売店内にさらに上級資格を設け、HMCIと各店舗が連携して事故削減に取り組んでいきます。

運転復帰に向けた機会の提供や、関係団体の連携などをサポート

Hondaでは「より多くの人にクルマを操る楽しみを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という想いのもと、運転復帰を望むお身体の不自由な方々への訓練の機会や場を提供すると共に、病院や教習所などで運転能力の確認をする方にそのノウハウの提供や地域連携を実現するための環境整備のサポートをしています。

運転補助装置が取り付けられた車両で、自操安全運転プログラムを体験

各地域の自動車教習所と作業療法士との連携を支援

Hondaは運転復帰を望む方の自動車運転能力評価の手法として、シミュレーターや実車での訓練などを行う「自操安全運転プログラム※1」を提供しています。また、各地域で安心して評価が受けられる環境の確立と充実を図るため、交通行政や指定自動車教習所協会、作業療法士会の相互理解と連携を支援。一昨年の沖縄県、昨年の熊本県、鹿児島県に続き、今年は広島県で指定自動車学校協会と作業療法士会が合同講習会を行いました。合同講習会では、Hondaの交通教育センターのインストラクターが講師となり、参加した教習指導員と作業療法士にそのノウハウを伝えました。作業療法士は患者役となって、運転補助装置が取り付けられた車両を運転し、プログラムを体験。さらにグループに分かれ、病院施設での運転復帰に向けた評価・訓練の実態や、自動車教習所の受け入れ体制などについて情報や意見を交換するなど、双方が交流する場も設けられました。参加した作業療法士の方からは「運転復帰をめざす患者様を受け入れてくれる教習所があることがわかったので、これからは気軽に相談できるようになる」といった声が聞かれました。

合同講習会では教習指導員と作業療法士が情報や意見を交換

送迎運転者への安全運転教育

HondaはNPO法人や福祉関連企業と連携し、「移送安全運転プログラム※2」を活用して、福祉施設の送迎運転者に送迎対象者に配慮した運転操作を身につけてもらうための取り組みを進めています。さらに、各地域のNPO法人の指導者が送迎運転者に移送安全運転プログラムを適切に運用できるようにするためのマニュアルづくりも進めています。

移送安全運転プログラム

※1 自操安全運転プログラム：高次脳機能障害を持ち、運転復帰を希望する方の能力評価の参考とするために、Hondaの交通教育センターで実施しているプログラム。実車運転時における現状の把握と、そこから見えた課題に対する訓練を行う。
※2 移送安全運転プログラム：福祉施設の送迎運転者を対象に、Hondaの交通教育センターで実施しているプログラム。送迎中の事故を予防する運転アドバイスとともに、送迎対象者への配慮の大切さを理解してもらうための教育を行う。

すべての交通参加者が考えるきっかけとなる情報発信

交通安全Webサイトと交通安全情報紙 SJ（セーフティジャパン）

Hondaの交通安全Webサイトでは、交通安全に関心をお持ちの皆様が有効にご活用いただけるよう、教材や教育機器を紹介する様々なコンテンツを用意しています。また、アニメーションで日常の交通環境に潜む危険について学べる「危険予測トレーニング（KYT）」なども公開しています。

交通安全情報紙SJ（セーフティジャパン）は1971年8月の発刊以来、タイムリーな情報提供や Hondaの交通安全教育のノウハウ、普及活動を紹介してきました。HondaのWeb サイトでは、SJの全記事を毎号掲載しています。

https://www.honda.co.jp/safetyinfo/

人から人へ、手渡しの啓発ツール

Hondaは全国交通安全運動に合わせて「セーフティキャンペーン」を実施しています。期間中に道路を使うすべての人が安全意識を持っていただくことを目的に、Honda従業員をはじめ、販売店や関係諸団体と連携し、お客様や地域の方々に広く展開しています。

一例として、二輪・四輪販売会社の店頭では、人から人への手渡しの安全活動を基本に、安全運転情報誌や啓発ツールを使ってお伝えしており、それらをWebサイトにも掲載しています。

四輪販売会社で配布している「Think Safety」

二輪販売会社で配布している「Pre-Riding Guide」

子どもから高齢者まで交通安全を学べる教材（一例）

できるニャンと交通安全を学ぶ小学校低学年歩行編

行動範囲が広がる子どもたちに道路状況に応じた安全な歩き方を学べるアニメーション映像と、映像にリンクした道路横断の実技を体験できるプログラムです。

できるニャンと交通安全を学ぶ（幼児向け）

一人で外を歩き始める前の子どもたちが体操やアニメーション映像でキャラクター「できるニャン」と一緒に道路上の危険を考え、安全な渡り方を楽しく学べるプログラムです。

高校生交通安全教育指導マニュアル（高校生向け）

高校生の交通事故防止を目的に、映像と資料から交通安全意識の向上や他の交通参加者への思いやりを身につけていただく指導者用教材です。

わが子の命を守るために（幼児の保護者向け）

小学校入学前の幼児の保護者に対して、危険な交通場面の映像と資料から自分の行動を振り返り、わが子の命を守るために何をすべきかに気づいていただくことを目的としたプログラムです。

安全な道路の渡り方について（高齢者向け）

イラストと運転者・歩行者の目線で表現された映像を使い「思い込みから起こる事故」を観察しながら考え、安全な横断方法を再認識していただくためのプログラムです。

上記教材の活用に関するお問い合わせ先　本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL：03-5412-1150